令和５年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和５年４月１３日（木）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立清水台小学校

■国語科

品川区立清水台小学校
令和５年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

総合的には、目標値、全国正答率を上回ることができ、継続して取り組んできた国語科の研究の成果が表れた。全学年とも、「文章を書く力」において課題が見られる。また話や情報を正しく理解することに課題がある学年が多い。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
２年	「文しょうを書く」 文を１文以上書いている。 「かん字をよむ」 第１学年に配当されている漢字を正しく書いている。	・テーマに沿って文章を書くことに慣れていない。 ・学習した漢字が定着しきれていない。
３年	「ものがたりを読み取る」 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	・物語の場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像できていない。 ・自分の思っていること、考えていることを文章に表す力が十分に備わっていない。
４年	「調べたことをもとに文章を書く」 情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている。 「文章を書く」 指定された長さで文章を書いている。	・指定された長さの文章で書く力、段落の役割を理解して書く力が十分に備わっていない。
５年	「漢字を書く」 第４学年に配当されている漢字を正しく書いている。 「文章を書く」 指定された長さで文章を書いている。	・話の聞き方の技能が十分に備わっていない。 ・習った漢字が定着できていない。漢字や言葉の理解が乏しい。 ・文章を組み立てる技能が十分に備わっていない。
６年	「漢字を読む」 第５学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。 「文章を書く」 資料から読み取った事実を書いている。	・習った漢字の定着ができていない。 ・文章や資料を正しく読み取ったり、自分の意見について理由を明確にして書いたりする力が不十分である。

■課題解決のための方策（取組指標）

２年	・様々なテーマで文章を書く経験を重ね、ワークシート等も活用し、より分かりやすく文章を書けるように指導する。 ・ことのはノートによる学習に加え、ノートに練習したり、プリントを活用したりして、反復学習に取り組む。また、学習した漢字を日常的に使うことを常に意識させる。 ・授業では、物語の読み取りを叙述に基づいて丁寧に行う。
３年	・読書指導の機会を設定し、語彙の獲得に努める。 ・感想や日記などで、自分の考えや感想を文章に表す機会を増やし、文章を組み立てる力を身に付けられるようにする。
４年	・文章を読んで自分の考えや感想をもつ機会を意図的に設定し、自分の言葉で文章を書ける力を身に付けられるようにする。 ・スピーチや日記、自分の考えを書く際は段落を意識して文章を書く機会を増やしていく。
５年	・計画的な漢字の学習と小テストを繰り返し行い、新出漢字の習熟を図る。 ・国語の文法単元において言葉の意味や語彙の関連性の習熟を図る。 ・読書指導や自身の考えや感想を言葉や文章で表す機会を設定し、語彙の幅広い獲得に努めるとともに文章の組み立て方を身に付けられるようにする。 ・授業内での対話の機会を増やしたり、発表への質問を伝える機会を増やしたりする。
６年	・漢字の定着を図るために、計画的に漢字の小テストを行う。 ・小テストでは、様々な熟語で出題し、語彙力を増やしていく。 ・読書指導を行ったり、グラフや資料に書かれている事実を丁寧に確認したりしていく。 ・自分の考えを友達と交流することで、多くの意見を取り入れたり、受け止めたりしながら自分の考えを深められる活動を取り入れていく。 ・筆者が伝えたいことを確認し、筆者の意見と自分の経験などの相違点を見つけながら根拠をもとに自分の考えを書く機会を増やしていく。また、文章の組み立て方を身に付けられるように指導していく。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■算数科

品川区立清水台小学校
令和５年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

３年生以上から習熟度別指導を行っている成果が表れ、総合的には目標値、全国正答率を上回ることができた。観点別に見ると「思考・判断・表現」の正答率が区正答率を下回った。「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が目標値を下回る学年があった。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
２年	「絵を使ったグラフ」 イラストを見て、お菓子ごとに個数を数えて、絵グラフに色を塗ることができる。 「120 までの数」 位取り記数法を理解している。	・ものの個数について、簡単な絵や図に表すことに慣れていない。問題文に正対できていない。（聞かれていることに正しく答えられない。） ・学習したことが定着しきれていない。
３年	「たし算・ひき算」 減法逆の減法の文章問題を表した図の構造をとらえることができる。	・加法の結合法則を用いて、考え方に合うように式に括弧を書くことができない。 ・減法逆の減法の文章問題の構造を図としてとらえることができない。
４年	「たし算・ひき算」 ３けた+４けた=４けたの計算ができる。 「円と球・三角形」 ボールが２こ入った箱の辺の長さから、ボールの半径を求めることができる。	・繰り上がり３回の計算では、繰り上がりを忘れたり、計算ミスをしたりする ・ボールの入った箱の辺の長さとボールの直径が等しいことを認識できなかった。
５年	「角の大きさ」 分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み方を理解している。 「いろいろな形」 ひし形の作図ができる。	・分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方が理解できていない。 ・ひし形の性質である「向かい合った二つの辺が平行」は理解していても、「すべての辺の長さが等しい」ことが十分理解できていなくて、平行四辺形との区別ができていない。
６年	「分数と小数」 小数と分数の大小比較をしている。 「小数の計算」 小数第二位÷小数第一位＝小数第一位の計算ができる。	・小数を分数に直すこと、その後の約分、比較する際の通分と複数の手順が必要なため、正答にたどりつけない。 ・小数点の付け忘れ、小数点の付ける位置の間違い。

■課題解決のための方策（取組指標）

２年	・ものの個数を表やグラフなどに表したり、表やグラフから数を読み取ったりする練習を重ねる。 ・問題文で何を聞かれているか常に意識させる。 ・位取り記数法の復習をし、定着を図る。
３年	・立式をする際に、どこを最初に計算するのか、それはどうしてかを考えさせて、括弧の使い方と結びつけ理解させる。 ・文章題に合わせて、テープ図を書かせて考えさせる。□の式を使って立式させ、□を求めるためにはたし算かひき算のどちらを使うか考えさせる。
４年	・筆算をする際にくり上がりの数を筆算に書き加えることを練習時にも徹底させる。 ・空間認識能力が低い児童には具体物を操作させたり、実際に計測させたりして、長さが等しいことを理解させる。
５年	・授業の中でも、分度器を手順に沿って丁寧に使わせることを繰り返し練習させる。 ・ひし形を、コンパスを使って作図させることで、すべての辺の長さが等しいことを理解させる。
６年	・日頃の授業の中で、プログラミング的思考（論理的思考）を使って問題を解く習慣を身に付けさせる。 ・筆算をする前に答えの見当を付けさせて、それに基づいて答えの見直しをさせる。小数点を最後に付けるのではなく、計算の途中で付けるように意識させる。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■社会科

品川区立清水台小学校
令和５年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
各学年の正答率は、全国値を大きく上回ることができ、ICT 機器の活用による視覚的に分かりやすい授業を行ってきたことの成果が表れた。また、児童がタブレット端末を活用する調べ学習等に取り組むことで、各学年がどの領域においても目標値を上回ることができたといえる。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
４年	「安全な暮らしー火事ー」 火事が起きたときの出動の仕組みについて、資料を読み取っている。	・資料や文章を読み取る力に課題がある。
５年	「くらしをささえる水」 飲料水の確保のために、ダムが建設されていることについて理解している。 「ごみのしょりと利用」 廃棄物の分別について理解している。	・用語の意味などの基礎知識が定着していない。また、資料から適切な情報を見付け出して読むことや、複合した資料から結論を導き出すことが苦手である。
６年	「日本の食料生産」 農産物の生産額の割合についてグラフにまとめている。 「自動車を作る工業」 自動車の製造工程について理解している。	・グラフや資料の読み取る力が不十分である。

■課題解決のための方策（取組指標）

４年	・資料やグラフ、地図の読み取りから分かったことを自分の言葉で表現する機会を計画的に設定していく。
５年	・資料の読み取りにあたって、課題を明確にしたり、読み取る視点を明示したりすることによって資料活用の力を伸ばす。 ・大切な用語や、自らが抱いた疑問点を自分から進んで調べさせる機会を増やす。 ・知識の暗記にのみ重きを置くことがないようにし、資料に基づいた仮説や事象のつながりに目を向けた考察に取り組む機会を増やす。
６年	・資料を的確に活用するために、読み取る視点を伝えたり、課題を明確にしたりしながら資料の読み取りができる力を付けていく。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■理科

品川区立清水台小学校
令和５年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

教科全体として各学年が例年よりも目標値を上回ることができた。分類ごとの数値も、各学年バランスよく得点を得ることができている。「植物の育ち方」に課題がある児童が多く、日々の経験や身の回りの事象などと関わらせて指導をしていく必要がある。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
４年	「太陽と地面のようす」 日なたの地面の上がり方をもとに、正午の日かげの地面の温度を推測できる。 「じしゃくのせいしつ」 方位磁針の針の動き方から、磁石の極を確かめられることを理解している。	・問題文を正確に読み取る力、考えを表現する力に課題がある。
５年	「１年間の動物のようす」 夏の動物の活動のようすや種類について理解している。 「物のあたたまり方」 空気のあたたまり方を理解している。	・基礎的な知識の定着が十分でない。他の事象と区別が付いていないものがある。
６年	「植物の花のつくりと実」 タンポポの花のつくりから、アサガオと共通するつくりを推測できる。 「ふりこのきまり」 ふりこの実験における条件制御の誤りを指摘できる。	・それぞれの植物のつくりの相違点の理解が定着していない。 ・条件を絞りながら実験を行う力が不十分である。

■課題解決のための方策（取組指標）

４年	・用語の定着については、ドリル学習などを通して確実な定着を図る。 ・予想や結論を、根拠をもって書く時間を単元ごとに確保し、文章を読み取ったり考えを表現したりする力の向上を図る。
５年	・学習したことを身の回りの生活事象と関係づけて考えることを授業の中で意識して行い、実感を伴った学習内容の理解を図る。 ・用語の意味などの基礎知識、まとめを確実に押さえる。
６年	・実験を通して、「自分の結果」ではなく実験結果が違ったときに何がその要因となっているかを考えさせていくよう指導していく。 ・自然を相手にする単元では、なるべく実際に手に取って観察や実験ができるように授業計画を綿密に立て、児童が体験から理解したり、考えたりできるようにしていく。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■英語

品川区立清水台小学校
令和５年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

教科全体としては目標値を上回ることができたが、「基礎」に比べ、「活用」の正答率が低かった。領域的には、「読むこと」のポイントが高く、「聞くこと」「書くこと」のポイントが低い点が課題である。観点別では、バランスよく得点を得ることができていた。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
６年	「日常会話の理解（聞く）」 身近で簡単な事柄についての話を聞き、その内容を理解している。 「会話全体の理解（聞く）」 日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測している。 「英作文」 例文を参考にしながら、身近な人について、簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。	・語彙力の不足により、分からない単語を推測することが難しい。 ・話を聞き取ることが苦手である。

■課題解決のための方策（取組指標）

６年	・普段の学校生活の中でも、話の内容を意識したり、推測したりして聞き取るなどを身に付けられるよう指導する。 ・メトロラーニングなどに取り組んだり、教科書に出てくる歌などを一緒に歌ったりする中で語彙力を増やしたり、英語を聞いて発音していく力を身に付けられるように授業を組み立てる。 ・各単元の終わりにはその単元で学習したことをもとに発表する機会を設け、英作文を書いたり、話したりできるように指導していく。また、事前のチェックを十分に行い、自信をもって発表できる環境を整えていく。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。